

VOL. 6
八戸市

魅力ある講座の実践紹介！

「We Love 柏崎！」

今回は、小学校と連携した活動を展開している八戸市立柏崎公民館の取組についてお話を伺いました。特に、地域と学校が協力して子どもたちを育てていく「地域学校協働活動」について、先駆的な取組をすることとなった経緯について御紹介します。



公民館も「We」へ仲間入り

八戸市では、中学校区にほぼ一つずつ公民館が設置されており、柏崎公民館は八戸市立第三中学校学区（類家・柏崎地区）にあります。同中学校学区内の小学校は八戸市立柏崎小学校だけですので、この地区には、小学校・中学校・公民館が1つずつあることとなります。

柏崎小学校は、平成20年度に八戸市教育委員会から「地域密着型教育推進事業モデル校」に指定され、学校・家庭・地域が連携・協同して、地域の子どもたちを共に育てる仕組み作りを進める取組を推進していました。それまでは、「I Love 柏崎」を合い言葉にしていたものを、PTAとも連携し「We Love 柏崎」という合い言葉に変化させました。

それを受けて公民館は自らが、地域コミュニティの核となるべく模索していたことから、それまで行っていた「公民館活動教室」「高齢者教室」などの一連の講座の一部に、横断的に「We Love 柏崎」のネーミングもつけることとしました。つまり、「地域を知る講座」「地域人材を活用している講座」「地域の子どもたちを育てる活動」などは、「公民館活動教室」等であり、また「We Love 柏崎」でもある、ということです。その名に当てはまる講座は、その時点で数多くありましたが、小学校と密に連携するようになると、小学校の保護者が体操講座の講師になるなど、新たな「We Love 柏崎」講座が誕生するようになりました。



地域の核としての活動が充実

柏崎小学校学校支援コーディネーターが、同校内で行っていた「夏休み学習会」（対象：小学生下学年、時期：夏休みのはじめ数日間）を平成23年は、同校新築移転のため柏崎公民館で行うこととなりました。この際、夏休みの課題だけでなく、もっと組織的な学習を準備することになり、公民館側からも学習会の中で出前講座をいくつか行うこととなりました。それ以後、「学習会」が移転後の小学校で行われるようになった現在も継続しています。出前講座は「音読教室」（当時の館長が継続）、「読み聞かせ」（プロの役者さんや継続して読み聞かせを行っている方による）、「なぞかけ教室」（現館長による）などがあります。講師たちは小学生たちともすっかり打ち解け、公民館の講座へ小学生が参加することも増えてきたようです。また出前講座は、この学習会に来ているボランティアの高校生に、公民館の存在感をアピールできる機会ともなっています。

成果としては、公民館が地域の核として主体的に活動することにつながっていることが挙げられます。以前から、町内会、防犯協会、交通安全協会などは、公民館の運営とも連携がありましたが、小学校との連携が密になることで、ますます地域の核としての役割が明確になり、活動が充実してきたことが感じられます。今後は、同じ地域にある中学校や県立の盲学校・聾学校とのより深い連携も視野に、ますます地域社会の絆を深められるように進めていきたいとのことでした。

【編集後記】 小学生が講座へ参加する数が増えつつあることなど、単に公民館が小学校を助けているだけでなく、公民館の活動そして地域の活動にも良い影響が現れていることが注目点だと思います。（TK）



《青森県総合社会教育センターシンボルマーク》

人づくりの拠点として、県民の生涯にわたる学習の輪が、和を持って限りなく広がっていくことを願いとしています。家庭、学校、地域社会が一体となる姿を表現するとともに、色を緑色とし、伸びゆく緑豊かな青森県を表しています。